

ジャパンランド、国内最大のデータセンターをオープン



不動産開発を手がける地元企業、ジャパンランド(Japan Land)は、ジュロン地区の「インターナショナル・ビジネス・パーク」内に設置した国内最大級のデータセンターを公開しました。7階建てのビルで賃貸可能床面積は2万2,300平方フィート(約6,700平方メートル)。建築・建設管理局(BCA)の「グリーン建築」基準を満たした環境対応型の構造になっています。

既に外資系銀行2行、「次世代国家ブロードバンド網」計画で光ファイバーケーブルの敷設を行う企業コンソーシアム「オープンネット(OpenNet)」と契約が成立しているほか、通信会社やシステム管理・運用代行事業会社、金融機関など複数の企業が興味を示しています。

シンガポールデータセンターは、2008年にオープンした東京データセンター(府中市)に続き2番目で、総工費162億円以上(2億5,000万SGD)をかけ2010年1月に完成しました。平均賃貸料は1平方フィート(約0.3平方メートル)当たり月額2,600~3,900円(40~60SGD)となっています。

東南アジア初の芸術促進団体

アジアン・カルチュラル・エンタープライズ(ACES)は、東南アジア地域にある文化団体、芸術家、企業の橋渡し役として、芸術・文化の普及を推進する非営利団体です。東南アジアの芸術・文化に関する包括的なデータベースを構築し、世界中の芸術家に提供することでアーティスト間の連携を深めていくことを目指しています。また、芸術活動の支援に関心を持っている企業にもデータベースを公開していきます。

ACESでは、芸術・文化に関心のある中小企業にシンガポールと他国の文化交流イベント「スポットライト・シンガポール」への参加をお願いしています。



ACESの開幕式に、100人以上の企業関係者および団体代表が参加した

レーザー製造大手、米ESI、シンガポールに新工場設立

微細加工用レーザー製造大手、米エレクトロ・サイエンティフィック・インダストリーズ(ESI)が、東部にあるカキブキット(Kaki Bukit)産業団地にアジア地域の製造・サービス拠点をオープンしました。

新工場では、超微細加工技術を必要とする受動部品の製造・サービスを主に行い、アジア地域の同社顧客の8割に製品を提供することができるようになります。同社はアジア地域の顧客やサプライヤーとの緊密な関係を築き、支援を強化していくことを目指しており、将来的には新しい製造ラインを追加することも検討しています。